

ぎふ感染症かわら版

令和元年 7月 19日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



夏休みに海外旅行をする方は、感染症予防に心がけましょう！

海外では、日本ではかかることのない感染症にかかってしまうこともあります。安全な旅行ができるよう、感染症に関する正しい知識と予防方法を身につけましょう。

渡航前の準備

● 情報収集

渡航先でどのような感染症が流行しているか詳しく確認しましょう。

● 予防接種

渡航先によって渡航前の接種が奨められるワクチンがあります。日にちに余裕をもち、できるだけ出発の1ヶ月以上前に医師に相談しましょう。

参考となるサイト

- ◆ 国立国際医療研究センター トラベルクリニック <http://travelclinic.ncgm.go.jp/index.html>
「トラベラーズワクチン 予防接種を受けるにあたって」 <http://travelclinic.ncgm.go.jp/021/004.pdf>

参考となるサイト

- ◆ FORTH/厚生労働省検疫所 <http://www.forth.go.jp/>
- ◆ 外務省海外安全ホームページ <https://www.anzen.mofa.go.jp/>



● 感染症予防のための持ち物

虫よけ剤、手指消毒用のアルコール剤など準備しておきましょう。

旅行中に気を付けること

● 生水や生の食べ物に注意

ボトル入りの水または炭酸飲料を飲みましょう。生ものは避け、火の通ったものを食べましょう。

● 蚊に刺されないよう対策を

肌を出さないように服装に気をつけて、虫よけ剤を使いましょう。

● 動物にむやみに近づかない

動物から人にうつる感染症があります。野生動物はもちろんのこと、飼われている犬や猫にも不用意に近づかないようにしましょう。



帰国後に体調が悪くなったら

- 帰国時に発熱や下痢などの症状がある方や、蚊に刺された、動物にかまれたなど心配なことがある方は、空港や港の検疫ブースで検疫官に申し出ましょう。

- 感染症には、潜伏期間（感染してから発症するまでの期間）が長いものもあり、帰国後数日してから具合が悪くなることがあります。その際は医療機関を受診し、渡航先や、現地での行動を医師に伝えてください。





海外で気をつけたい主な感染症



飲み水・食べ物からうつる感染症

コレラ・赤痢・腸チフス・A型肝炎など

衛生状態の悪い地域では、水が様々な病原体に汚染されていることがあります。飲み水は、ボトル入りの水または炭酸飲料を飲みましょう。海外の屋台などでは、飲み物に入っている氷、カットフルーツやサラダなども現地の生水が使用されている場合があるので注意しましょう。生肉、生魚なども避け、十分に加熱されたものを食べましょう。



蚊が媒介する感染症

デング熱・ジカ熱・マラリアなど

アジア、中南米など熱帯・亜熱帯地域では、蚊が媒介する感染症が流行しています。特に、インドネシア、フィリピン、タイなど東南アジアの国々でデング熱に感染する人が多くなっています。流行地域では、長袖・長ズボンを着用し、素足でのサンダル履きを避けるなど、肌を出さない服装を心がけ、虫よけ剤も活用し、対策を徹底しましょう。虫よけ剤は説明書の注意書きに従って使いましょう。



人からうつる感染症

麻しん・風しん・インフルエンザなど

麻しんや風しんは世界各地で流行しています。麻しんは、感染力がとても強いので、海外で感染して帰国した場合、国内で多くの人にうつしてしまうことがあります。特にフィリピンやベトナム、タイなど東南アジアの国々に渡航した際に麻しんに感染する人が多くなっています。風しんは現在国内でも流行していますが、海外でも注意が必要です。これまでに麻しん・風しんの予防接種を受けたことがない人は、渡航前の接種をおすすめします。また、オーストラリアなど南半球の国々では、日本の夏の時期にインフルエンザが流行しますので、注意が必要です。



動物からうつる感染症

狂犬病・鳥インフルエンザ^{マーズ}・MERSなど

日本以外のほとんどの地域（北米やヨーロッパも含まれます）では、野生動物や犬にかまれた場合、狂犬病ウイルスに感染する危険性があります。かまれた場合は傷口を洗い、すぐに医療機関を受診してください。狂犬病の他にも、動物からうつる感染症は数多くありますので、野生動物はもちろん、飼われている犬や猫にも近づかないことが大切です。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

